



取材協力：株式会社コシナ ☎ 0269 (22) 5100  
(レンズなどの光学精密機器の製造) ※就職相談受付中

## 特集 中野市

# 理由で働く

昨今の就職市場は「売り手市場」と言われています。

中野市においても「注文があるのに人手が足りていないから受けられない」「営業して仕事の幅を広めたいが職員がいらない」と市内企業からの嘆きを耳にします。

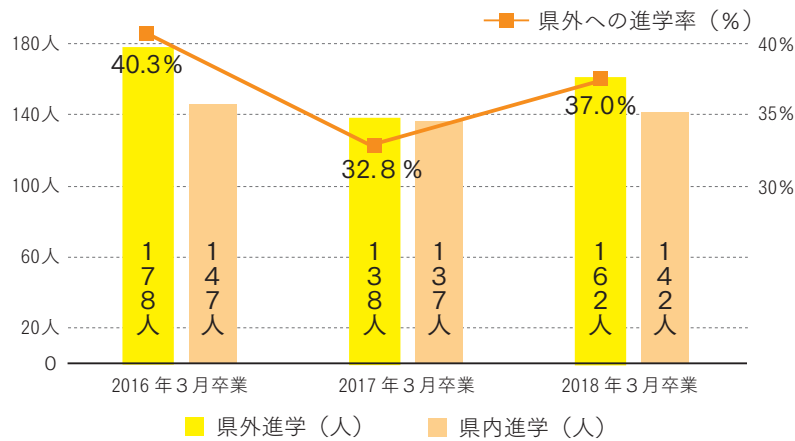
最近まで「売り手」側であった若い働き手は、今、何を思い、何を感じているのでしょうか。今回の特集では、中野市の未来を支える若き働き手に「中野市で働く理由」を聞きました。

### 売り手市場とは

商品売る側が「売り手」。商品を買う側である消費者が「買い手」。就職活動の場で見ると売り買いするものは「労働力」になります。つまり、売り手は、学生などの労働力を提供する立場の人間で、買い手は労働力を必要とし、手に入れようとしている側。人材不足の近年では、就職したい学生などが優位になっている状態のことを売り手市場と呼んでいます。

中野西高校と中野立志館高校の卒業生が長野県外へ進学する割合は、全体の30%を超えます。この卒業生たちの中で、中野市に戻ってきて就職する人も少なくはありません。

## 市内高校卒業生の県外進学状況



Uターンしました。

株式会社コシナ  
入社2年目  
小島佑太さん  
(24歳)



中野市が  
一番  
落ち着く  
環境

Uターンの就職者も多いという株式会社コシナ。「祖父がコシナに勤めていて、中野市といえばコシナという印象がありました」と就職先を選んだ理由を話すのは、コシナ入社2年目の小島さん。「都会で暮らしてみたいという動機もあり、東京の大学に進学しました。最初、

東京での暮らしは、大変でしたが逆に初めてのことが多く新鮮な気持ちで過ごせていました」と学生時代を振り返ります。

「都会暮らしも時間が経つと新鮮さがなくなり、大変ときました。そのような中で、地元から離れて、改めてその土地の良さを感じ、やっぱり根を下ろすには、中野市の環境が自分には落ち着くんだなと思うようになりました。現在、実家から職場に通っているという小島さん。「休みの日はドライブに行ったり、友達と遊んだりしています。実家暮らしは、金銭面でも精神面でも支えられています」と話します。コシナでは、繁忙期に残業時間が増えることもありますが、仕事とプライベートのメリハリがつくように配慮し、充実したプライベートの時間を過ごすことが、仕事の充実につながる

と言います。

レンズの組み立てを担当している小島さん。「職場の皆さんは一つ一つ丁寧に教えてくれ、家族のように接してくれます。そのような環境で製品一つ一つにもこだわり、大量生産にはないクオリティーを追求しています。コシナのレンズは人工衛星にも載り、宇宙へ行くレンズ。誇りを持って仕事に取り組んでいます。最後に小島さんは「景色の良いところに行くことが多いので、その度にカメラがあればもっと良かったのにと思っています。いつか、自分で作ったカメラのレンズをつけたカメラを持って、ドライブに出かけたいですね」と近い将来の夢を語っていただきました。



▲宇宙で流星観測に使用されている最先端技術のレンズ